



▽日時：2005年7月9日（土）13：45～17：00

▽場所：太陽コンサルタンツ（株）3F会議室

（新宿区四谷3-5不動産会館、丸の内線四谷3丁目駅下車3分）

▽問い合わせ先：新宿区四谷3-5 不動産ビル

（事務局）tel 03-3357-5916 fax 3357-6398（小泉、益永）

□ 目 次 □-----

<今週の提言>

はびこる新植民地主義—『ジャマイカ 楽園の真実』封切り 松坂正次郎

<戦後60年の原点> 沖縄慰霊の日--6月23日 原田 勉

<日本たまご事情> 米寿の人 齋藤富士雄

<玉川上水の謎> その2 世紀の大計画 安富六郎

<80才からのメッセージ> 大空襲を忘れない。--戦時体験（その3）

【父が子に語り継ぐということ】 原田 勉

<編集後記> ばらまき助成とは？

---

<今週の提言> はびこる新植民地主義—『ジャマイカ 楽園の真実』封切り

---

ロンドンで開かれていた主要8カ国（G8）財務相会合は、6月11日、累積債務に苦しむアフリカ最貧国の債務約400億ドル（4兆2400億円）全額を免除することで合意した。これはサハラ以南18カ国が世界銀行や国際通貨基金（IMF）からの債務を帳消しにするものだ。しかし、南米やカリブ海諸国の同様の債務には触れずじまいだった。

東京・アップリンク（UPLINK. X）で、カリブ海の最貧国の1つ、ジャマイカの住民の日常生活をドキュメンタリーで描いた女性監督ステファニー・ブラックの作品『ジャマイカ 楽園の真実』が公開される。カリブ海の小島アンテュー出身の作家ジャマイカ・キンケードの著作『小さな場所』（平凡社）をもとにしたものだ。

ジャマイカはもともとイギリスの植民地だったが、1962年に独立した（面積1.1万平方キロ、人口200万人のうち8割が黒人、経済はサトウキビ、バナナ、コーヒー、ココナッツなどの資本家的プランテーションとポーキサイド、そして観光収入が主体）。しかし、経済的自立は困難で、IMFや世界銀行からの借金を余儀なくされ、現在の借金45億ドル（4700億円）の高い金利を払うために国民は働いているようなものだ、とか。

ステファニー・ブラックはジャマイカで人々と暮らしを共にして得た体験と情報を撮り続け、IMF、世界銀行、IDB（国連工業開発機構理事会）などの国際的貸付機関は、ジャマイカの人々にとっては“高利貸し”と写ったことを描いている。つまり、取立屋ハリケーンというわけだ。ご一覧を。

【参考 URL】

映画『ジャマイカ 楽園の真実』の公開予定・コメントは  
<http://www.uplink.co.jp/x/log/000535.html>  
から

松坂 正次郎  
山崎農研会員、「農政と共済」コラムニスト  
[y.nouken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.nouken@taiyo-c.co.jp)

---

<戦後 60 年の原点> 沖縄慰霊の日--6 月 23 日

---

今から 60 年前、1945 年、昭和 20 年、6 月 23 日。沖縄守備軍第三二軍司令官の牛島満中将と参謀長の長勇中将は、摩文仁の地下壕で自決した。ここに組織的な沖縄での戦闘は終結したとされる。

この前年の 10 月から沖縄は空襲が激しくなり、10 月 10 日、那覇市は空襲で 1 週間も燃え続けた。全島が戦場になったのだ。

1945 年、昭和 20 年、米軍は 3 月 26 日、慶良間列島に上陸を開始し、次いで 4 月 1 日、ついに沖縄本島中部西海岸に上陸した。米軍は 18 万 3000 人。沖縄守備軍は 11 万人だった。

アメリカ軍の本土上陸を 1 日でも引き延ばす持久戦と位置づけられた日本軍は、沖縄戦では島民を総動員して戦場に駆り立て、玉砕戦法で臨んだ。しかしアメリカ軍の圧倒的兵力の前に守備軍は全滅。島民は砲煙弾雨の中に放り出され悲惨を極めた。80 日余の戦闘で、島民と軍人合わせて 20 万人余りの尊い命が犠牲になった。

ああ！沖縄の霊よ。私たちはいつまでも忘れない。私たち内地のものは、ヒロシマ、ナガサキ、東京大空襲は伝えているが、沖縄を忘れがちである。今、今日、ここに思う。

昭和 20 年、6 月 6 日、海軍沖縄特別根拠地隊司令官の大田実少将は、ここで玉砕する決意を示して、東京の海軍省に打電した。その最後に「沖縄県民かく戦えり。県民に対し後世特別の御高配を賜らんことを」と結んでいる。

東京青山学院高等部の今春の入試で、元ひめゆり学徒の証言を「退屈で飽きた。」と感じたという内容の英語感想文が出題されて、問題になった。

私たちは、沖縄県民に特別のことをしてきただろうか。ごめんなさいと合掌するのみ。

<参考リンク>

◆ひめゆり平和祈念資料館

<http://www.himeyuri.or.jp/>

「ひめゆり」に関する入試問題の報道について (6/13)

<http://www.himeyuri.or.jp/20050613.html>

◆戦争を語り継ごう-リンク集- (西羽 潔さん)

<http://www.rose.sannet.ne.jp/nishiha/senso/>

に、ウェブ上の沖縄戦手記などのリンク集があります。

沖縄タイムス

<http://www.okinawatimes.co.jp/>

◆戦後 60 年平和ウェブ

沖縄タイムスの戦後 60 年関連特集・連載・記事、過去の「慰霊の日」特集復刻版などを集めた特設ページ。「60 年前の新聞」では、10・10 空襲から地上戦直前にかけて緊迫する「沖縄新報」など当時の紙面を毎日掲載

<http://www.okinawatimes.co.jp/sengo60/index.htm>

琉球新報

<http://ryukyushimpo.jp/>

◆連載：沖縄戦新聞

<http://ryukyushimpo.jp/variety/page-128.html>

◆沖縄戦関係資料閲覧室〔財〕日本学術協力財団]

連載：戦後 60 年特集

<http://www.okinawa-sen.or.jp/>

◆沖縄県平和祈念資料館

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

動画で見る沖縄戦跡

◆沖縄戦 慰霊の日 [okinawabbtv.com](http://okinawabbtv.com)

<http://www.okinawabbtv.com/irei/irei.html>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

<日本たまご事情> 米寿の人

---

昨晚私ども業界の先達である所 秀雄さんの米寿の祝いが東京六本木ヒルズ内のホテルであった。お世話になった業界の人たちが 300 名近く集まった。あまり自慢にならないが六本木ヒルズに行くのは初めてだ、地下鉄の駅から歩いてやっとそこにたどり着いた。そこには全国はおろか海外からもお祝いに多くの人たちが駆けつけていた。

現役のときの所さんを皆知っているが、歳をとられてからはあまりお会いしていない。皆固唾を呑んで所さんの登場を待った、やがて紋付袴に身を固めて壇上に立たれたその姿は端然としていられ、現役のときを偲ばせる迫力が残っていた。30 分ちかくゆっくりではあるが原稿もなしに話をされた。その声には張りがあり、語ったこともとても魅力的であった。

どうも人それぞれに寿命というものは決まっているらしい。誰でも皆、長生きしたいのは同じであるが結果はみな違う、望んでいても誰でも米寿を迎えられるわけではない。ましてボケず動き回れるとなると更に小数の人たちになってしまう。

元気の良い先輩たちにお会いすると、こちらまで嬉しくなってしまう。いろいろな歳のとり方があるものだ。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

---

## <玉川上水の謎> その2 世紀の大計画

---

徳川家康は江戸入城（1603年：天正18年）後、直ちに水道づくりを計画した。そのはじまりが、いまの東京杉並区の善福寺池、妙正寺池からの小河川（用水）、さらに井の頭の池から日本橋、京橋方面に給水した神田上水であるが、このような小河川の開発では需要は満たされなかった。

武蔵野の台地では地下水が深く、水不足に陥りやすい。農村の生活も深井戸に頼るなど不便なものであった。質のよい水を自由に使えることは江戸や農村にとってもおおきな夢であったろう。これが農業や防火の用水として役立つことも大きな魅力であったはずだ。江戸の東には荒川や利根川があるが、暴れ川であり、地形的にも取水は無理であった。このことから頼れる水源は多摩川以外には無かったのである。

玉川上水は多摩川の水を江戸へ運ぶために、今から約350年前（承応2〜3）徳川4代将軍家綱時代につくられた。この上水は多摩川左岸の羽村から武蔵野を東に進み山の手を通過して四谷大木戸（新宿御苑甲州街道口。現四谷区民会館敷地内）まで約40kmの素掘の水路によって出来ている。記録によると1653年4月4日から工事が始まり掘削完了が同年の11月15日とあるから、わずか7ヶ月間で掘削を完成させたことになる（1年説もある）。上水は外堀と江戸城内につながっているが、湯島、下町まで給水する大水道網を形成していた。

水が毎秒1トン流れると、1日の総量は86,400トンになる。仮に1人1日

リットル（現在は約 330 リットル）の水使用とすれば、これは 86 万人の生活水量である。1 年を通して安定したこの水量を保つためには豪雨や洪水時を見越して水量変動にも耐える水路断面が必要である。このために取水堰にも余裕が見込まなくてはならない。開設当時にはおそらく毎秒 1 トンを上回る取水がされたと計算できる（後述：推定計算による）。このことから上水の規模が如何に大きなものかがうかがえよう。

この上水は江戸の都市（18 世紀初頭の推定人口 100 万人以上）だけでなく、武蔵野の農村にも大きな影響を与えた。これらの都市・農村の目ざましい発展は玉川上水なしには考えられない。質のよい潤沢な上水供給は政治的にも経済的にも重要な意味をもつ世紀の大計画であったとあってよいだろう。以上のように見ると、このような計画には長期の調査が必要であり、これがかくも短期間に完成出来たと記されているのには驚くほかはない。

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

---

<80 才からのメッセージ>

大空襲を忘れない。――戦時体験（その 3）【父が子に語り継ぐということ】

---

【今回の記事は原田勉の手書き原稿を清書しているうちに息子の原田太郎が大量加筆してしまった特別版です。★印と URL が入っている部分は全部加筆もしくは修正です。ご了承ください。】

米軍の日本空襲は、1942 年、昭和 17 年から、1945 年 8 月まで、全国的に行われた。

★加害した者は忘れていないが、被害者はいつまでも忘れていない。

私の戦時中に居候していた親戚や、働いていた工場、軍隊は何度も爆撃を受けた。私が直接見聞きしたことに限って空襲体験を書くことにした。

1、東京初空襲（1942 年 4 月 18 日）のとき。

私は 1942 年、昭和 17 年春、受験のため、初めて上京し、東京・本郷区駒込道坂の叔父の家にお世話になった。

当時劣勢だった米軍は、真珠湾の仕返しとアメリカ本土国民の戦意高揚を考え、航続距離の長い陸軍機 B25 を 16 機、航空母艦に乗せて本土初空襲を行なったが、この空襲は当時、新聞で知ったに留まる。

★最近調べたところによると東京では、王子、荒川、尾久、牛込、小石川などと、今では駒込と地下鉄で 7〜10 分の近さに爆弾が落ち、死者 39 名、重軽傷者 307 名を出しているが、その当時は噂も伝わってこなかった。「隣組」の箝口令が徹底していたのだろうか？

★ちなみに当時の大本営発表、新聞報道は、159 号でも紹介した、松山大学法文学部田村譲教授のホームページ

<http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/>

の、

「本土初空襲（ドゥリットル空襲）」

<http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/hatukuusyuu.htm>

に詳細に書かれて興味深い。

軍部の発表を受けて「きょう帝都に敵機来襲 9 機を撃墜、わが損害軽微」と報道されたが、その実、一機にも損害を与えてははず、東京、横浜、川崎、横須賀、名古屋、神戸などで、計 50 名の死者、損害家屋 262 戸などの被害があった。

★「加害した者は忘れている」と書いたが、こと、この奇襲に関しては、いまでは日本のマスコミも世論も忘れてはいえる。

★4 月 18 日は発明の日でもあるそうなのだが、

<http://www.teclawplo.com/Hatsumei.htm>

で、ドゥリットル空襲は、日本では忘れられていても、アメリカでは連合艦隊をミッドウェイにおびき出して壊滅的打撃を与え、戦況を一変させた功績として語り継がれ、この空襲に参加したアメリカ側の人員は 80 名（16 機に分乗）で、その内 22 名が生存（2002 年現在）しており、毎年、この記念日に集まっているとのこと。2002 年の 60 周年記念には、記念パレードを行ったことが米

全国ネットのニュースでも流れ、対して、日本のマスコミは、2001年の真珠湾60周年のときと同様ほとんど触れていないとのことである。

(出典：テックロー特許法律事務所)

<http://www.teclawplo.com/>

Doolittle's Tokyo Raid を

<http://www.yahoo.co.jp/>

で、検索すると7700件以上結果が出て、英文ページは和訳もしてくれる。

The Doolittle Tokyo Raiders - R.O. Joyce Memorial Site (英文)

<http://www.doolittleraider.com/>

が、最も詳しくうだ。

★歴史記録映像-昭和17年中期頃

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/p-rek1/p-sho5/p-s34/IPA-rek490.htm>

に、ドゥリットル隊で使われたのと同型機の爆撃の様子が、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) の戦時の動画とともに教育用画像素材として置いてある。素材の取捨選択には少し疑問も残るが。

出典：IPA「教育用画像素材集サイト」

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

## 2、B29による中島飛行機武蔵野製作所空襲のとき

私が徴兵され試運転工場を離れた後 (戦後友人から聞いた話)、1944年11月24日、東京初空襲があり、中島飛行機武蔵製作所が米軍B29 (空の要塞という重爆撃機) 88機により集中的に爆撃された。後の記録によると、250キロ爆弾38発、油脂焼夷弾14発が工場内に落下し、死者78名、重軽傷者80余名を出した。この後も12月3日、12月27日、1月9日、2月17日から8月8日まで十数回続き、爆弾600発以上が命中し完全に廃虚となった。被害は動員学徒17名を含む220人の死者と負傷者226人の犠牲者を出した。

また、中島飛行機製作所の周辺の杉並区荻窪、武蔵野町、保谷町、田無町、東久留米村 (いづれも当時) に至るまで米軍の空襲は住民に多くの被害を及ぼした。

この軍事施設のせいで、戦後何年にも渡って、これらの地域で多数の不発弾

が見つかっている。

戦後 60 年を経た今年も 6 月 10 日 西東京市（旧田無・保谷）東伏見 3 丁目で  
“不発弾”が発見され 7 月 10 日に処理が予定されている。

<http://www.city.nishitokyo.lg.jp/press/2005/050610/>

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/notice/050710/>

■発見状況

地下約 10 メートルで発見

■爆弾種類

全長約 180 c m、直径約 60 c m の米国製 1 トン爆弾

■予定避難数

発見場所を中心に半径約 500 メートル以内の約 3,200 世帯、約 7,000 人

（西東京市 2,380 世帯 5,075 人、練馬区 450 世帯 850 人、武蔵野市 380 世帯 1,000 人）

【参考】市内が避難地域となった最近の不発弾処理

- ・平成 9 年 5 月 17 日 武蔵野市緑町 3-9-11 「N T T 武蔵野開発センター研究所内」
- ・平成 10 年 5 月 13 日 西東京市柳沢二丁目 14 番（当時は保谷市）  
「旧朝比奈機械工場跡地」

3、東京大空襲見聞については次号で触れます。

---★空襲体験を読むにあたって（戦争を知らない世代による見方）---

那覇市観光課提供による平和学習ガイドのページ（修学旅行向け）

<http://www.city.naha.okinawa.jp/heiwa/gaid/>

には「1944 年 10 月 10 日、5 次にわたる空襲（飛行機による爆弾攻撃）にて旧那覇市街は壊滅した。」と、空襲という言葉に注釈を付けている。

新聞を読まない生徒にも理解してもらいたいとの配慮であろう。  
それだけ空襲という恐怖体験は、日本では風化しているのである。

ましてや、史上、空襲を経験したことのない無い国、たとえばアメリカ国民のほとんどは、この体験を継承しようがない。

飛行機による爆弾攻撃は、投下スイッチを押すだけで飛び去るので、のちに地上の惨状を知らずに過ごせれば、加害意識は低いままである。

前田哲男 著

『戦略爆撃の思想 ゲルニカ-重慶-広島への軌跡』(1988/08)

<http://www2.freejpn.com/~az1156/page166.html>

に、

「空中にある者からは、さらに殺人の感覚は欠落した。苦痛にゆがむ顔も、助けを求める声も、肉の焦げる臭いも、機上の兵士たちには一切伝わらなかった。知覚を極端に欠いた戦争、行為とその結果におけるはなはだしい落差をもつ殺戮の世界がそこにあった。」

とあるが、同様の証言をベトナム戦争の元米軍パイロットが

1974年度アカデミー・ドキュメンタリー長編賞受賞作品

映画『ハーツ・アンド・マインズ/真実のプラトーン』

<http://dmovie.fc2web.com/weeklydata/weeklydata3/heartsandminds.html>

で、反省を込めて語っていた。(当時、日本のTVでも吹き替え版で少なくとも2度放映されている)

『戦略爆撃の思想』には、

「第一に、日本軍の重慶爆撃は「戦略爆撃」なる名称を公式に掲げて実施された最初の意図的・組織的・継続的な空襲作戦であった。ドイツ空軍のゲルニカ攻撃より約1年遅れはしたが、1日限りではなく三年間に218回の攻撃回数を記録した。空襲による直接の死者だけで中国側集計によれば1万1885人にのぼる。」ともある。

ここでも「加害した者は忘れている」

Cityscape Blog: 重慶爆撃について

[http://cityscape.air-nifty.com/cityscape\\_blog/2004/08/post.html](http://cityscape.air-nifty.com/cityscape_blog/2004/08/post.html)

しかし、中国でも「風化」は進んでいるようである。

この一般人の士気低下を目論む無差別爆撃＝「戦略爆撃」の思想は、第一次世界大戦の体験を元に、イタリア陸軍のジュリオ・ドゥーエ将軍(1869～1930)が著した「制空論」で述べたのが最初らしいが、実践したのは日本軍だったのだ。

「戦略爆撃」思想のひとつの頂点が「ヒロシマ」「ナガサキ」である。

つい最近の記事では是非読んで貰いたいものがあります。毎日新聞のスクープ。

「長崎原爆：米記者のルポ原稿、60年ぶり発見 検閲で没収」

<http://www.mainichi-msn.co.jp/today/news/20050617k0000m040159000c.html>

毎日新聞 2005年6月17日 3時00分

終戦直後、占領軍の命令に違反して「ウェラー記者は45年9月6日、鹿児島県からモーターボートや鉄道を使って長崎市内に入り、同市を拠点に約2週間にわたり被爆地や九州北部を取材した。」

「外国人記者として初めて（長崎）入り取材した米シカゴ・デーリー・ニューズ紙（廃刊）の故ジョージ・ウェラー記者の未公表の原稿と写真が60年ぶりに見つかった。原稿は、長崎市の惨状と原爆症に苦しむ市民の様子を克明に記している。ウェラー記者は原稿を連合軍司令部（GHQ）検閲担当部局へ送ったが、新聞に掲載されることはなかった。」

紙媒体の本紙では抜粋だったが、webでは原稿・英文・和訳の全文が読めます。関連記事部分は検索しないと出てこないのでリンク集を特設しました。

毎日新聞 長崎原爆ルポ関連記事リンク集 2005.8.16.までは読めます。

<http://nazuna.com/tom/2005/20050617mainichi.html>

---

<参考リンク出典>

『戦略爆撃の思想』紹介は、  
群馬の書店・正林堂テーマ館

<http://www2.freejpn.com/~az1156/>

から。

Cityscape Blog: 重慶爆撃について は、

[http://cityscape.air-nifty.com/cityscape\\_blog/](http://cityscape.air-nifty.com/cityscape_blog/)

執筆者不明。

<参考資料>

朝日歴史写真ライブラリー『戦争と庶民』（3）空襲・ヒロシマ・敗戦

朝日新聞社 1995

（農文協図書館で貸し出し可）

『電子耕』100号記念企画「戦争を語り継ぐ」2003.1.9.

5、中島飛行機武蔵製作所の被爆

<http://nazuna.com/tom/war/05musahinoseisakushu.html>

原稿：山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

加筆：農文協図書館 原田太郎

---

<編集後記> ばらまき助成とは？

---

6月22日の朝日新聞（朝刊）に「集落営農、全国に1万 ばらまき助成の窓口に？ 農水省調査」という記事が掲載された。

地域単位で農家がまとまり共同で農業を営む集落営農に関する農水省の調査を紹介しているのだが、「政府は、幅広い農家に一律的な助成をするこれまでの政策を見直し、07年度からは強い農家に助成金を集中する。ただ、農家切り捨てに反発する農業団体や関係議員に配慮して」という記述にひっかかった。

ご多分にもれず農業でも“構造改革”がすすめられており、「強い農家に助成金を集中」もその一環である。しかし、159号（2005年5月26日号）の<編集後記>で書いたように、食と農と環境は三位一体である。とすれば、農家切り捨てという表現はあまりに不十分ではないか。これは農家の切り捨てという次元にとどまらず、食の切り捨て、環境の切り捨てにも通じるものであるが、そのような指摘は記事のどこにも見られない。

「ばらまき助成」と括るにはあまりにこの問題は大きすぎる。

2005年6月22日

山崎農業研究所会員・田口 均

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

[y.noken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp)

となっております。投稿される方はこちらアドレスをお願いします。

-----  
次回 162 号の締め切りは 7 月 4 日、発行は 7 月 7 日の予定です。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html)

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 161 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag2.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html)

2005.06.23（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*

.